

教科(科目)	数学（数学Ⅰ）	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	新 高校の数学Ⅰ（数研出版）				
副教材等	ポイントノート数学Ⅰ（数研出版） Step By Step！新高校の数学（数研出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までにこのような資質・能力を育みます。 ①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。 ②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。 ③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。 ④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。 ①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。 ②総合的な探究の時間では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。 ③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。 ④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事への参加、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
--

3 指導の重点

- 基礎力を定着させると同時に、応用問題に対応できる力を養成するために、課題、課題考査、定期考査を効果的に行う。また、適量の課題を出して家庭学習の習慣づけをする。 - 問題を解くにあたって論理的な思考を拠り所にすることの重要性を理解させ、その過程において、記号等正しく使うことに配慮しながら、的確に記述できるようにする。 - 習熟度別学習を行うことで、より一層の定着を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	評価の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・小テスト ・提出課題の内容 などから、評価します。	評価の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・小テスト ・提出課題の内容 ・問いかけに対する答 などから、評価します。	評価の観点を踏まえ、 ・授業への参加や態度 ・授業中の発言 ・提出物などの内容、提出状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価する。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	数と式	1. 計算の基本 2. 単項式と多項式 3. 多項式の加法と減法 4. 多項式の乗法 5. 展開の公式 6. 因数分解 7. 展開, 因数分解の工夫 8. 根号を含む式の計算 9. 実数	・既習の計算の方法と関連づけて、式を処理する。 ・展開や因数分解の公式を利用する。 ・根号を含む式の計算や分母の有理化をする。 ・たすき掛けの仕組みを理解する。 ・これからの学習の基礎となる数の計算方法に関心を持ち、積極的に習得する。 ・おきかえなどの工夫によって、よりよい方法を考察する。	20	定期考査 小テスト ノート ワーク・課題の提出 授業への参加や態度、発言
5		1. 1次方程式 2. 不等式 3. 不等式の解 4. 多項式の乗法	・不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解く。 ・関数や座標について理解し、グラフをかくことができる。 ・日常の問題を解決するのに、1次方程式や1次不等式を活用する。	10	定期考査 小テスト ノート ワーク・課題の提出 授業への参加や態度、発言
6	2次関数	1. 関数 2. 1次関数のグラフ 3. 2次関数の	・関数を表、式、グラフによって考察する。 ・不等式の性質について、等式の性質と比較して、考察する。	14	定期考査 小テスト ノート ワーク・課題の提出 授業への参加や態度、発言
7					

9		グラフ(1) 4. 2次関数の グラフ(2)			
10		1. 2次関数の最 大値, 最小値 2. グラフと2次 方程式 3. グラフと2次 不等式 ・課題学習	・平方完成を利用して、2次関数の最大値・最小 値を求める。 ・2次不等式を解くときに、図を積極的に活用す る。 ・解の公式を積極的に利用し、どんな場合でも2 次方程式が解けるようにする。 ・関数を用いて売り上げが最高になる金額の設 定を考える。	18	定期考査 小テスト ノート ワーク・課題の提出 授業への参加や態度、発言
11					
12					
1	図形と計量	1. 直角三角形 2. 三角比 3. 三角比の利 用 4. 三角比の相 互関係 5. 鈍角の三角 比 1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面 積 課題学習	・直角三角形において、三平方の定理を利用し、 辺の長さを求める。 ・三角比は、直角三角形の辺の比であることを理 解する。 ・直角三角形において、正弦・余弦・正接を求め る。 ・鈍角の三角比の値を求める。 ・計量の問題に三角比を活用することができる。 ・直接測ることのできない距離を求めることに 関心を持つ。 三角比を使って校舎の高さを測る	15 10	定期考査 小テスト ノート ワーク・課題の提出 授業への参加や態度、発言
2	集合と命題	1. 集合 2. 命題と集合 3. 必要条件と 十分条件	・集合を、要素を書き並べて表す。 ・命題の意味を理解する。 ・目的に応じて、適切な統計量やグラフ、手法な どを選択する。	8	定期考査 小テスト ノート ワーク・課題の提出 授業への参加や態度、発言
3	データの分析	1. データの整 理 2. データの代 表値 3. データの散 らばり 4. データの相 関 5. 仮説検定の 考え方 課題学習	・集合に関する記号を、適切に用いる。 ・命題が偽であることを示すには、反例を1つあ げればよいと理解する。 ・データの傾向を把握し事象の特徴を表現する。 ・集合について、それぞれの特徴や関係に合った 表現方法を考察しようとする。 ・データを整理して全体の傾向を考察する。 ・ゲームを通じてデータをとって分布を調べて みる。	10	定期考査 小テスト ノート ワーク・課題の提出 授業への参加や態度、発言

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期的に小テストをします。範囲は別途指示します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

数学は今まで学習してきた事を土台にして、新しい内容を積み重ねていく学問です。したがって、基本となる学習内容が定着していないと、土台が弱くて新しい内容が積み重ねられません。そこで、より多くの問題を学校や家庭において学習することによって、知識の定着や論理的な筋道を立てる力を育み、その上で「記憶力」や「ひらめく力」を伸ばすことができます。